

第2章 集合と命題

1 集合と命題

【例題】1 集合と要素

正の偶数全体の集合を A とする。次の□の中に、 $\in$ または $\notin$ のいずれかを書き入れよ。

- (1) $2 \square A$ (2) $3 \square A$

解 (1) $2 \in A$ (2) $3 \notin A$

1 正の奇数全体の集合を A とする。次の□の中に、 $\in$ または $\notin$ のいずれかを書き入れよ。

- (1) $7 \square A$ (2) $8 \square A$ (3) $12 \square A$ (4) $13 \square A$

2 6の正の約数全体の集合を A とする。次の□の中に、 $\in$ または $\notin$ のいずれかを書き入れよ。

- (1) $2 \square A$ (2) $3 \square A$ (3) $4 \square A$ (4) $5 \square A$

【例題】2 集合の表し方

次の問いに答えよ。

- (1) 次の集合を、要素を書き並べる方法で表せ。
 ① 9の正の約数全体の集合 ② $\{x \mid x \text{ は } 40 \text{ 以下の自然数で } 8 \text{ の倍数}\}$
 (2) 集合 $\{2, 4, 6, \dots, 100\}$ を、要素の条件を述べる方法で表せ。

解 (1) ① $\{1, 3, 9\}$ ② $\{8, 16, 24, 32, 40\}$
 (2) $\{x \mid x \text{ は } 100 \text{ 以下の正の偶数}\}$ [別解] $\{2x \mid x \text{ は 整数, } 1 \leq x \leq 50\}$

3 次の集合を、要素を書き並べる方法で表せ。

- (1) 50以下の正の整数で11の倍数全体の集合
 (2) 48の正の約数全体の集合
 (3) 300以下の自然数で、4で割ると2余る数全体の集合

4 次の集合を、要素の条件を述べる方法で表せ。

- (1) $\{1, 2, 3, \dots\}$ (2) $\{1, 3, 5, \dots\}$
 (3) $\{3, 6, 9, \dots, 99\}$ (4) $\{2, 3, 5, 7, 11, 13, 17, 19\}$

●ポイント

- ① ある条件を満たすものの集まりを集合といい、集合に含まれる1つ1つのものをその集合の要素という。 a が集合 A の要素であるとき、 a は集合 A に属するといい、 $a \in A$ または $A \ni a$ と表す。
 ② 集合の表し方には、 $\{\bigcirc, \bigcirc, \dots, \bigcirc\}$ のように要素を書き並べる方法と、
 $\{x \mid x \text{ の満たす条件}\}$ のように要素の条件を述べる方法がある。

【例題】3 部分集合

次の集合 A , B の関係を、記号 $\subset$ を用いて表せ。

- (1) $A = \{n \mid n \text{ は正の偶数}\}$, $B = \{n \mid n \text{ は自然数}\}$
 (2) $A = \{n \mid n \text{ は正の奇数}\}$, $B = \{n \mid n \text{ は } 2 \text{ より大きい素数}\}$

解 (1) $A \subset B$ (2) $B \subset A$

5 次の集合 A , B の関係を、記号 $\subset$, $=$ を用いて表せ。

- (1) $A = \{2, 4, 6\}$, $B = \{n \mid n \text{ は } 36 \text{ の正の約数}\}$
 (2) $A = \{2n \mid n \text{ は自然数}\}$, $B = \{6n \mid n \text{ は自然数}\}$
 (3) $A = \{3, 6, 9\}$, $B = \{3n \mid n = 1, 2, 3\}$
 (4) $A = \{n \mid n \text{ は } 16 \text{ の正の約数}\}$, $B = \{2^n \mid n \text{ は 整数, } 1 \leq n \leq 4\}$

【例題】4 共通部分と和集合

2つの集合 $A = \{1, 2, 3, 4, 5\}$, $B = \{2, 4, 6, 8\}$ について、 $A \cap B$ と $A \cup B$ を求めよ。

解 $A \cap B$ は、 A と B のどちらにも含まれる要素全体の集合だから、 $A \cap B = \{2, 4\}$

$A \cup B$ は、 A と B の要素をすべて集めた集合だから、 $A \cup B = \{1, 2, 3, 4, 5, 6, 8\}$

6 集合 $A = \{1, 2, 3, 5, 7, 8\}$, $B = \{2, 4, 5, 8\}$, $C = \{2, 4, 6, 8, 10\}$ について、次の集合を、要素を書き並べて表せ。

- (1) $A \cap B$ (2) $A \cup B$ (3) $A \cap C$
 (4) $B \cap C$ (5) $A \cap B \cap C$ (6) $A \cup B \cup C$

7 集合 U , A , B , C を次のように定めるとき、(1)~(3)の集合を、要素を書き並べて表せ。

$U = \{n \mid n \text{ は } 10 \text{ 以下の自然数}\}$, $A = \{2n \mid n \in U\}$, $B = \{3n \mid n \in U\}$, $C = \{n \mid n \text{ は正の奇数}\}$

- (1) $A \cap B$ (2) $A \cup B$ (3) $B \cap C$

8 $A = \{x \mid x \leq -1\}$, $B = \{x \mid -3 < x < 2\}$ とすると、 $A \cap B$, $A \cup B$ を求めよ。

●ポイント

- ① 集合 A のすべての要素が集合 B の要素になっているとき、 A は B に含まれる、あるいは、 B は A を含むといい、 $A \subset B$ または $B \supset A$ と表す。このとき、 A は B の部分集合であるという。
 ② $A \subset B$ かつ $B \subset A$ のとき、 A と B は等しいといい、 $A = B$ と表す。また、 $A \subset B$ かつ $A \neq B$ であるとき、 A は B の真部分集合であるという。
 ③ $A \cap B$ は A と B の共通部分、 $A \cup B$ は A と B の和集合を表す。
 ④ 不等式の解は、不等式を満たす x の値全体をさすので、集合ととらえることができる。不等式の解となる集合 A , B について、 $A \cap B$ は連立不等式の解となる集合である。不等式の解となる集合を考えると、数直線を用いて考えるとよい。